

カワウソ *Lutra nippon* Imaizumi et Yoshiyuki

【選定理由】

国内では1923～1927年頃までは全国各地で毎年35～120頭が捕獲されていた(御厨,1976)。1928年に捕獲が禁止された後も減少をつづけ、1979年の高知県での記録以降は生息が確認されていない。県内では1923年までに絶滅状態になっていたと考えられる。

【形態】

頭胴長 645～820mm、尾長 390～489mm、後足長 117.5～134.0mm、耳介長 21～27mm、頭骨基底全長 105.8～119.2mm。水生に適応しており、頑丈で細長く円筒状の体をしている。短い前肢と後肢の指趾には水かきがある。背面の毛色は黄褐色で、腹面は淡灰褐色をしている。尾は基部が太く、胴からなめらかに移行しているのでその境界部は不明瞭である。頭蓋は扁平で吻が短い。鼓室胞は低くて三角形をしている。歯式は I3/3, C1/1, P4/3, M1/2=36。

【分布の概要】

【県内の分布】

日本国内では絶滅した可能性が高く、現在は県内に分布しない。八王子貝塚(西尾市)と伊川津貝塚(田原市)(ともに縄文時代：宮尾ほか,1990；伊川津遺跡発掘調査団,1988)、朝日西遺跡(清洲市)(弥生時代：愛知県埋蔵文化財センター,1992)で遺存骨が出土している。1737年頃には丹羽郡と海西郡(現海部郡の一部)に(宮尾,1985)、1887年頃には篠島(南知多町)に(出村,1921)、1913年前後には新城市長篠に(長篠郷土研究会,1958)生息していたという。豊川市でも1945年以前の文献には生息していた記述がある(豊川市役所,1973)。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生息していたが、北海道では1955年の捕獲を最後に、四国では1979年に高知県須崎市の新荘川で撮影されたのを最後に絶滅した可能性が高い。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

高知県南西部に生存する可能性も完全には否定できないが、国内ですでに絶滅状態と考えられる。

【現在の生息状況／減少の要因】

禁猟になる1928年までの乱獲と河川環境の悪化により絶滅したと考えられる。

【保全上の留意点】

乱獲の原因はカワウソの良質な毛皮が高値で取引されたことであるが、さらに水系の汚染や護岸工事といった生息環境の破壊がカワウソを絶滅させたという(宮尾,1985)。現在、県内にカワウソの生息が可能な環境は残されておらず、分布を回復させる余地は残されていない。

【特記事項】

愛知県では奥三河山間部を除く県内全域にヌートリアが生息しており、カワウソの最近の記録の中にはヌートリアを誤認したものと考えられる。日本哺乳類学会では絶滅危惧種とされる(佐々木,1997)。種の保存法での国際希少野生動物種。文化財保護法による特別天然記念物。

【引用文献】

- 愛知県埋蔵文化財センター, 1992. 朝日西遺跡, 318pp. 愛知県埋蔵文化財センター, 愛知県海部郡弥富町。
伊川津遺跡発掘調査団(編), 1988. 渥美町埋蔵文化財調査報告書 4. 渥美町教育委員会, 愛知県渥美町。
出村 鈺, 1921. 篠島史蹟, 151pp. 博信社, 名古屋市。
御厨正治, 1976. ニホンカワウソ雑記. 哺乳動物学雑誌, 6:214-217。
宮尾嶽雄, 1985. 哺乳類. 西春町史資料編 2, pp.221-259. 西春町史編集委員会, 西春町役場。
宮尾嶽雄・酒井英一・子安和弘・蜂矢喜一郎, 1990. 愛知県西尾市八王子貝塚出土の陸上哺乳類遺存体, pp.32. 西尾市教育委員会, 愛知県西尾市。
長篠郷土研究会, 1958. 特殊な動物. 長篠村史, pp.68-70. 長篠郷土研究会, 愛知県鳳来町。
佐々木 浩, 1997. イタチ科 Mustelidae. レッドデータ日本の哺乳類, pp.100-107. 文一総合出版, 東京。
豊川市役所, 1973. 豊川市史, 852pp. 愛知県豊川市, 豊川市。

県内分布図

